

財田翔悟展 ― 日々、刻々 作品コメント

作品名

<p>蕩揺</p>	<p>絵画自体は動くわけではないですが、写真や動画では残しづらい、感情の揺らぎのような部分を多分に残すことが出来るのではと考えています。</p> <p>その前提をもとに敢えて絵画に連続性を持たすことによって、よりストーリーを具現化できないかと試みたのが今回の連作になります。</p> <p>今回の扱った情景は「洗濯物をつかんで移動させた」だけの動きです。</p> <p>その動きの中の部分部分を切り抜くことでそれだけのよくある日常風景が特別なものとして浮かび上がってきます。一瞬目が合った瞬間や普段とは違った表情に感じる角度、そういった機微に物語が詰まっていると思う場面をチョイスしました。</p> <p>写真ともアニメーションとも違う何かしら効果があることを期待して制作しています。</p>
<p>お屋のシロ</p>	<p>家にいる猫、シロは表情豊かでいつみてもかわいいのですが、欠伸をする瞬間が何ともいえなくいとおしいのです。</p> <p>猫は一日の大半を寝て過ごしている生き物で、起きていてもどこか眠そうです。</p> <p>何にどう頑張ってるのかわからなくなるくらい漠然と過ごす中で、一旦立ち止まって休むことやあんまり考えすぎても無駄だなと思わせてくれる脱力したシロの表情には少しの笑顔と新たに進む気持ちをくれる力があるのです。</p>
<p>うたかたの日々</p>	<p>私は高校時代、江ノ電に揺られて通学していました。具体的に制作には反映されているとは思わないですが、あの頃のなんともいえない緩い時間がなかったら多分自分は今絵を描き続けてないかもなと思える貴重な時間でした。</p> <p>今年の夏ごろ、久しぶりに母校の前の海に訪れたときになんとなく違和感を覚え、なんだったのかなとすこし気になっていたところ、ネットニュースで温暖化により砂浜の浸食が進んでいるという記事を見かけました。</p> <p>どうやら自分が高校生だったころに比べて20m近く浜辺が後退しているとのこと。</p> <p>違和感はいざ知らず。潮の満ち引きの感じではなかったとどこかで感じ取っていたようです。</p> <p>ただ、視点を変えて水際を見ると変わらず波が行ったり来たり、寄せては引いてを繰り返している。遠くの水平線を見ても、相変わらず濁った水と目線の端の方に江の島が見える。</p> <p>何事も日々常に変化しているが、見方によってはそれに気づけないものです。</p> <p>多分、変化に気づきたくない時もあるかもしれませんが、その場合は変化に気づきづらい視点でしかものを見ていないのかもしれない。その方が幸せなこともあるでしょう。</p> <p>それでも変化は確実に起こっていて、視点によってはそれは明確に理解できてしまいます。</p> <p>この作品は変化を気づきづらい視点です。それでもその外側や別の見方をすると何かは起こっているはず、そんな考えを思い浮かべてほしいと考えて制作しました。</p>